



研修の様子

編集体制
編集委員は、広報常任委員会の6名で構成。

去る10月3日(月)、より親しまれる紙面づくりと、より良い編集方法を調査するため、山形県川西町の議会広報の発行状況と編集方法について研修してまいりました。

研修報告 議会広報委員会

山形県川西町議会を研修



発行状況

- 発行回数 定例会終了後15日以内年4回(定例会毎)
- 印刷部数 5,100部
- 配布対象 町内全世帯、町内公共施設、町内企業
- 発行予算 1,983,000円
(平成23年度当初予算)



川西町の広報紙

町民に行政、議会の活動等をわかりやすく早く広報するために定例会終了後15日以内に発行し、議会と町民は一体となった議会だよりづくりを目指していくため、町内7地区から8名の方を広報モニターとしてお願いし、毎月順番で1名の方に「広報モニターからひとこと」と題して掲載している。

編集に関しては、委員会を毎月5回ほど開催し、町民の方にわかりやすく表示されているか、誤字脱字はないか。タイトルは、目立つように大きく、専門用語があれば、注釈をいれるなど常に町民目線で編集・校正にあたられている。

紙面においては、町民記載の「町民の声」や一般質問などのその後を追った「追跡 あれからどうなった!」などを取り入れ、町民に興味を持つような構成となっている。

川西町の概要

- 人口 17,347人
- 世帯数 5,271世帯
- 面積 166.46km²
- 議員定数 15名
- 委員会 3常任委員会
(総務文教・産業厚生・広報)
- 議会運営委員会

川西町の議会だよりは、昭和60年4月に創刊し、現在まで106号を発刊しており、第15回山形県町村議会広報コンクールにおいて、特選を受賞し、平成23年2月に全国町村議会が主催する議会だよりコンクール大会においても、優良賞を受賞し、今後、「城里町議会だより」を発行するにあたり大いに参考となる事案であり、常に町民にわかりやすく溶け込みやすい議会だよりを編集することが大事であると実感した調査研修となりました。



役場前で

研修報告 議会運営委員会

宮城県蔵王町議会を研修



去る10月12日（水）に、蔵王町の議会活性化の取り組み・通年議会について研修してまいりました。

活性化の取り組み

- 昭和63年 一般質問での対面方式
- 平成9年 一問一答方式を一般質問に取り入れ、順次本会議の質疑でも
- 平成11年 議員発議で情報公開制度を制定
- 平成18年 議員発議で平成20年改選から議員定数を4名減
常任委員も3から2常任委員会に変更
- 平成20年 議会活性化検討委員会立ち上げ、議会改革検討事項を定める
先進地視察
- 平成21年 議会事務局の体制整備・定期的学習会を開催
- 平成23年 議員定数等調査特別委員会を設置
- 議員活性化検討委員会で、新たな改革を推進している

○通年議会

これまでの経過を踏まえ、議会改革に取り組んできた。その中で、通年議会の導入に踏み切った。会期は、定例会の回数を年1回、仕事始めから仕事納めまでとした。ただし、議員の任期満了及び議会の解散に伴う一般選挙があった場合は年2回。メリットとしては、1回首長が議会を招集すれば、次からは、議長の判断等にて招集する事ができ、議会が機動的・機動的にその機能を十分に発揮することが大きく、デメリットは、今のところはない。平成21年1月から実施している。

※ 通年議会とは、定例会の会期を1年間として閉会期間をなくし、必要に応じて本会議・委員会を開けるようにする制度のことです。
議会の主導性・機動性を高めることができ、チェック機能等により充実強化を図り、災害時の緊急対応や突発的な行政課題に議会がすぐ対応できるようにするものです。

蔵王町の概要

- 人口 13,096人
- 世帯数 4,274世帯
- 面積 152.85 km²
- 議員定数 16名
- 委員会 3常任委員会
3特別委員会
議会運営委員会



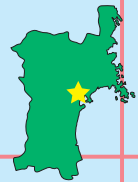
研修風景



役場前で

蔵王町議会では、議員の政策能力向上・町民に親しまれる議会、審議会等の就任などを検討しながら、議会はそのもてる力を十分に発揮して政策立案や政策提言を行っていかねばならないと熱心に議会活動を行っており、今後の城里町の議会運営に大いに参考となる研修でありました。

宮城県松島町を視察



去る11月8日（火）、東日本大震災の被害の調査と観光地の復旧状況調査のため、宮城県松島町を視察してまいりました。

●東日本大震災における被害状況等

震度6弱（宮城県の最大 栗原市 震度7）
 津波の高さ 3.2m（16時13分 松島町第1波到達）
 津波の高さ 3.8m（16時40分 松島町第2波到達）
 津波による浸水面積 2 Km²
 家屋等被害
 全壊 216戸 大規模半壊 342戸 半壊 1,158戸
 一部損壊 1,374戸
 床上浸水 189戸 床下浸水 84戸
 人的被害
 亡くなった方 16人（町内2人・町外14人）
 避難所数 45箇所 避難者数 3,719人

●観光地の被害状況と再開について

松島湾に沿って、数多くの名所や観光施設・ホテルがあり、津波により大様々な被害を受けました。水が引いた後には、泥やガレキが散乱し、「日本三景」松島の風景明媚な景観は一瞬にして姿を変えてしまいました。しかし、町民や他の地域のボランティアの方々の懸命な復旧活動により、震災前の美しい松島の景観を取り戻すことができ、国宝「瑞巖寺」は4月10日に再開し、4月29日には、観光遊覧船の運航が、7月1日には、鮮やかな朱塗りの「福浦橋」の通行が再開され、震災前の観光客であふれた観光地を取り戻すことが出来つつあります。

そこで、原発の風評被害が広まり、観光客が激減しているなか、観光の町を取り戻すべく、「復興」・「創造」・「貢献」の三つの理念を柱とした復興基本方針を決定し、町民と一丸となって前進していくために、農業・漁業・林業・観光業等の各産業間が連携強化し、「旬味かきの里」や「松島発！環境保全米プロジェクト」などを開催し、基幹産業の観光の復興をしようとしております。

■ 松島町の概要 ■

人口 15,365人
 世帯数 5,489世帯
 面積 54.04 km²

日本三景に数えられ、全国有数の観光地で、特別名勝、県立自然公園に指定されています。

また、国宝瑞巖寺などの文化遺産が町内各地に残されている歴史の町でもあります。



震災当時の状況



研修風景



役場にて

松島町は、「観光」ということから、町の復興・活性化を多方面と連携して強化しているわけですが、我が町としてもこの町の基幹産業は何か、また、それを盛り上げていくためには、何が必要なのかを見極め、後世に残していくかなければならないと痛感した研修となりました。

研修報告

総務民生常任委員会

宮城県大和町を視察



去る11月17日（木）に消防の対応について、宮城県大和町を視察研修してまいりました。

大和町は、仙台市から約20km北に位置し、国道4号が走っている町の中心部が最も狭く、南北に1km、東西には山形県境から32kmの距離があり、蝶が羽を広げたような形をしています。

- ・消防組織の隊形は、団長をはじめ、現員537名で編成され、本部・第1〜5分団。女性消防団は本部付で配置。装備は、小型動力ポンプ45台、小型ポンプ付軽積載車4台、消防ポンプ自動車2台です。
- ・自主防災組織は、59行政組織のうち28組織に設立しており、設置割合は49%、人口的には6割以上が参加している。町からは、防災資機材の貸与がある。
- ・近隣自治体や民間事業者との応援協定は、災害対策基本法に基づく通信整備の利用等に関する協定を宮城県警察本部長と結んでいるなど、12の協定を結んでいる。
- ・防災訓練は、300〜500名が参加して、避難訓練・煙体験・起震車体験・炊き出し体験・消火器による初期消火訓練等を、町内を6ヶ所に区切り、年1ヶ所ずつ実施している。
- ・女性消防団は、通常の消防団員と同じように夏季講習・高齢者宅防火診断・上級普通救急講習会等を行い、各地区で活躍している。
- ・防災無線については、平成4〜7年に整備し、移動局21局・固定局96局・個別受信機238戸あり、デメリット対策としては、個別受信機の設置・市街地は音を下げている。
- ・災害時の消防団員等の連絡方法は、団長・副団長は、直接連絡。分団長を通して電話連絡。火災時消防自動車班にはブザーと消防無線で連絡している。

また、東日本大震災被害状況の説明があり、死者3名・ケガ7名・全壊家屋41棟・大規模半壊家屋39棟・半壊家屋202棟・一部破損家屋2319棟・道路通行止め1ヶ所。消防団の活動は、3月11日から3月24日までで延べ1197名が出動した。

消防防災の役割は非常に重要であり、多様な災害において防災関係機関及び地域住民が一体となった災害応急活動が実施出来るよう相互の協力体制の確立を図るとともに、併せて地域住民の自主防災意識の高揚と防災技術の習得を図ることは重要である。今回の研修を参考とし、本町でも消防団の改革を含め、地域防災等のあり方を検討していかねばならないと感じました。

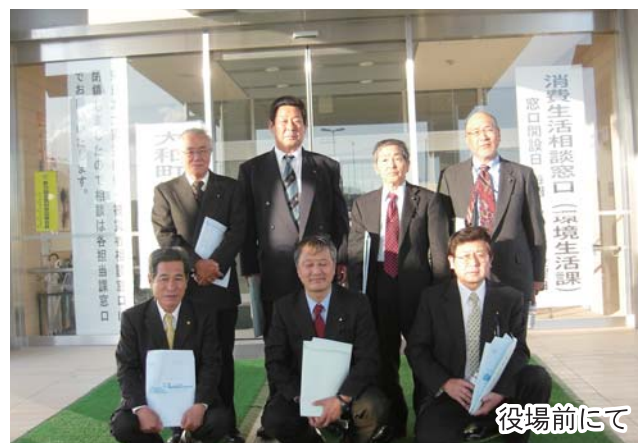


研修風景

大和町の概要

人口 25,409人
世帯数 9,160世帯
面積 225.59km²

町のシンボル七ツ森や船形山そして吉田川に代表される恵まれた自然と古からの歴史と文化の豊かな町



役場前にて